

## 本所スライス会

尾花 栄蔵

本所にスライス会と称するゴルフの会有り。

この会に入会するものは高潔なゴルフ愛を持ち乍らもゴルフ道に精進せず、誰よりもゴルフが下手でなければ入会が許されえない、狭く低い門をくぐらねばならない。嘗て入会を希望するも、ゴルフが上手い為に入会を断られ、涙を呑んだものは数知れず存在した。

昭和41年8月(1966年)に創設。幹事は多少のゴルフルールを知っていたが為に任命された。幹事の名は水野昭三、中村善一、会長が渡辺鶴夫、毎月1回の開催を目標とする。時々休むがしぶとく続き現在は580回に迫ろうとしている。

スライス会の初代会長の金言に「シングルには金を貸すな」というのが有る。ゴルフに夢中に成ると商売を忘れ、家庭を顧みずゴルフ道に突き進むので、金を貸したらとんでもないことになるぞという。

又ゴルフはあくまでも趣味の範囲を出でず、狂に成っては成らないと言い伝えられ、スライス会の会員に脈々と受け継がれている為、ゴルフに執着せず練習に疲れることも無いがゆえ、スコアーにも関心を示さず、ただひたすら大地を耕し自然の中を歩き廻る。

初代の会員は皆、雲の上のゴルフ場に居て現在の会員は2代目が主にゴルフと似たるものを毎月楽しんでいる。初代の家訓を守り、今月も腕ではなく足を鍛え戯言を振り回しゴルフ下手道に突き進んでいる。

会の名前の通り会員は右に曲がる球(スライス)を全員が打つかと云えば、さにあらずそんな難しい技は究めておらず、右に左に飛ばばまだまし大地を削り、球をコロガシ、半歩のごとく前に進み、途中砂場が有ればそれを恐れて迂回するも何打目かの後に吸い寄せられて砂をかき混ぜ、池が有ればやはり恐怖心に逆らえず迂回するも、やはり吸い寄せられて水の音を聞き、グリーンに乗っては小さなホールを目指し右往左往する。

何が楽しいかは会員個々の目線にて皆目見当がつかないが、継続は宝なのだ。是非一緒に森林徘徊がしたい者が有れば、是非面接試験を受けてもらいたい。今でも下手でなければ入会は許されない。会員となれば下手の世界に没入し、セラピー効果は大きく交感神経活動は80%減少し副交感神経活動は100%上昇し、強い生理的リラックス効果を生じることは明らかに成ることだろう。面接試験で運よく130という素晴らしいスコアーで廻れば、 $(130-72) \times 0.8 = 46$ のハンデが堂々ともらえる。36で足切りなぞという姑息な考えはこの会では成り立たない。この位のハンデの人は私を含めゴロゴロ存在する。以前、同伴競技者がバンカーに入ると、打った回数を後ろ手で指折り数える人が居たが、安心して下さい、今の会員は数を覚えられません。一緒に遊びたい方はお声掛けお待ちしております。

現在の会長は尾花栄一です。



創設時メンバー

